

活動名称 (40字以内)	伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く		
団体名等	大学院農学生命科学研究科附属演習林		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input checked="" type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input type="checkbox"/> 面接
	<input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		4 人
	<input type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
参加資格等	学部学生 (申請時に提出する参加申請書により、意欲的に取り組めると主宰が認める者。)		
活動期間	2020/3/8(日) ~ 3/11(水)	主な活動場所	岡山県
	4 日間		
目的	日本には失われかけている伝統工芸がある。その一方で伝統工芸を守ろうという取り組みがある。守る取り組みに身を投じることから、伝統工芸を守る意義を知り、社会のありようを考える契機としてもらいたい。		
具体的な内容 (800字程度)	<p>炭と聞けばBBQなどに用いる燃料を想起するであろう。消臭剤を想う方もあろうか。その一方で、日本の伝統工芸で様々な樹種の炭をそれらの特性を活かして研磨に用いて来たことはあまり知られていない。漆器や蒔絵などの伝統工芸の完成品には一般も価値を認め注目しているが、それら伝統工芸を支える様々な炭があること、そしてそれらを生産する体制もほとんど失われかけていることは知られていない。そういった炭たちの生産体制がどの様な状況に置かれているかを一考する機会もないというのは、時代の趨勢と片付けてしまってもよいものだろうか。例えば駿河炭はニホンアブラギリの炭であるが今では静岡県でこの炭が焼かれることはなく、福井県で細々と焼かれるくらいになってしまったことなどは、この東京大学でも一顧もされることはないのではないかと。その福井県でも、アブラギリ資源の再生産に割くエネルギーはないと聞く。</p> <p>ニホンアブラギリ林を有する樹芸研究所では、途絶えてしまった駿河炭を焼く夢を実現して、学生に教育プログラムとしてプレゼントしたいという思いがあった。しかし、白炭を焼く窯がないため、「夢」は漂流を続けた。一方、岡山の伝統工芸木炭生産技術保存会では、ニホンアブラギリの入手に手詰まり感があった。情報ネットワークが発達した現代でなかったならば、奇跡としか言いようがないこの必然的なマッチングから、駿河炭の生産体制(駿河炭焼き技術の伝承とニホンアブラギリ林の再生産)を整える共同研究が始まることになった。この様に始まった協力体制をいち早く東大生に還元したい、その思いからこの体験活動プログラムを立ち上げることにした。</p> <p>初日 ・備前おさふね刀剣の里にて、古式鍛錬と刀剣製作の一連の工程を見学し、研磨炭で金属表面を研磨する。</p> <p>二日目・三日目 ・岡山県苫田郡鏡野町富西谷の窯にて駿河炭(白炭)を焼く。 ・合間にチェーンソーと斧を駆使して炭焼きの資材を用意した後に黒炭焼きにも手を出す。</p> <p>四日目 ・たたら製鉄のふるさとを訪ねる。 ・岡山県に植栽したニホンアブラギリ植栽地の見学。 ・山林整備：岡山県加賀郡吉備中央町杉谷で炭材となるアカマツ植栽地の見学、枝打ち体験。</p>		
備考	宿泊先：津山市内、あるいは鏡野町内		
参加するための費用*	内 訳(1名当たり)	その他*特記事項は以下に記載	
	交通費 35,000 円 宿泊費 13,000 円 (食費) 6,000 円 () 円 計 54,000 円	奨励金額	35,000 円
ウェブサイト等	伝統工芸木炭生産技術保存会: https://www.mokutanworks.com/ 笑楽窯: https://www3.hp-ez.com/hp/sumikama		

